

氏名	相良翔	部署	社会福祉子ども学科	職名	准教授
研究分野	福祉社会学、犯罪社会学、医療社会学、司法福祉論				
学位	博士（社会学）				
学歴	2011年3月 上智大学大学院総合人間科学研究科 社会学専攻 博士前期課程 修了 2018年7月 中央大学大学院文学研究科社会学専攻 博士後期課程 修了				
経歴	2011年4月～2014年3月 更生保護施設 補導員 2014年4月 埼玉県立大学保健医療福祉学部 助教 2022年5月 埼玉県立大学保健医療福祉学部 准教授				
所属学会（役職）	日本社会学会, 日本犯罪社会学会, 福祉社会学会, 日本社会病理学会, 日本保健医療社会学会, 関東社会学会, 日本ソーシャルワーク学会、青少年問題学会、British Association for Japanese Studies				

【2025年度実績】

1. 研究業績							
(1) 著作(著書及びその他の著作物)							
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数		著者、編者名	発行等年月
1	社会福祉士国家試験過去問解説集2026	共著	あり	中央法規出版、612		日本ソーシャルワーク教育学校連盟	2025.5
2	生をめぐる問い―別様な世界を生きることを可能とする社会	共著	あり	中央大学出版部、338		相良翔・青木彩香、天田城介	2026.3
(2) 論文							
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	Research on Desistance from Crime in Asia: A Scoping Review	共著	あり	○	Asian Journal of Criminology、21、online	Masahiro Suzuki, Sho Sagara, Nozomi Yamawaki, Noriko Hashiba	2025.11
2	When Care Becomes Killing: Exploring the Motives for Eldercide by Family Caregivers in Japan	共著	あり	○	Deviant Behavior、1-19.	Masahiro Suzuki, Ootani Akinori, Sho Sagara	2026.3
(3) 学会発表							
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	併存性障害を有する人の『(老い)衰えゆくこと』を支える―IARSAでのフィールドワークを通じた考察	共同	第23回福祉社会学会大会シンポジウム、兵庫		○相良翔・○石橋康		2025.6
2	The Perception of Time Among Individuals with Co-Occurring Disorders	単独	British Association for Japanese Studies 50th Anniversary Conference、Wales		○Sho Sagara		2025.9
(4) その他							
	名称	単・共	発表場所等		発表者(発表者は○印)		発表等年月
1	コメント：日本社会病理学会第41回大会シンポジウム「終戦80年企画―戦争の社会病理」	単独	日本社会病理学会第41回大会シンポジウム、宮城		○相良翔		2025.9
2. 競争的資金等の研究							
	競争的資金等の名称	研究名			研究代表者・研究分担者の別		研究期間
1	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C	更生保護分野における民間による就労支援実践に関する質的研究			研究代表者		2023.4～2026.3
2	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究C	「刑務所の中のソーシャルワーク」の実践・倫理・教育に関する実証的・比較法的研究			研究分担者		2023.4～2026.3

3	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究B	ダルクにおける就労支援の位置づけと実践的方法論の複合的包括的なミクロ社会学研究	研究分担者	2023.4～2027.3
4	日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究B	若年者の犯罪・非行からの離脱プロセス：デジスタンスを促す／妨げる社会的要因の探求	研究分担者	2023.4～2027.3
3. 教育業績				
(1) 講義				
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	医療と福祉の社会学	○	15	医療・福祉社会学における基礎的な理論や概念について講義し、それらを批判的に検討するための基礎的能力の養成に努めた。 また、オリジナルテキストを作成し、受講生が学習しやすい環境づくりを心がけた。 さらに、受講生の疑問や質問を随時把握し、その内容を講義に反映させた。
2	社会福祉の原理と政策Ⅰ	○	15	社会福祉学における中核的な理論や概念について基礎的な講義を行い、現代社会の福祉的課題を科学的に考察する力を養うことに努めた。 あわせて、オリジナルテキストを作成し、受講生が学習しやすい環境を整えるよう心がけた。 また、リフレクションペーパーなどを通じて疑問や質問を随時聞き取り、その内容を講義に活かした。
3	司法福祉論	○	15	司法福祉に関する制度ならびに理論・概念の基礎について講義し、現代の司法福祉を批判的に検討するための基礎的能力の養成に努めた。 また、レジュメや動画資料を作成・提示し、受講生が学習しやすい環境づくりを心がけた。 さらに、受講生の疑問や質問を随時把握し、その内容を講義に反映させた。
4	子ども若者支援論（大学院前期）		4	子ども・若者支援における非行および薬物依存の現状について講義し、受講生とのディスカッションを通じて理解を深める機会を設けた。
5	ソーシャルワーク特論（大学院前期）		4	研究論文のレビューを通じて、実践研究に関する理解を深めることに努めた。
6	福祉と医療の社会学特論①（大学院後期）	○	15	医療・福祉社会学における基礎的な理論や概念について講義し、専門的な研究を批判的に検討する力の養成に努めた。 また、オリジナルテキストを作成し、受講生が学習しやすい環境づくりを心がけた。 さらに、受講生の疑問や質問を随時把握し、その内容を講義に反映させた。
7	福祉と医療の社会学特論②（大学院後期）	○	15	医療・福祉社会学における基礎的な理論や概念について講義し、専門的な研究を批判的に検討する力の養成に努めた。 また、オリジナルテキストを作成し、受講生が学習しやすい環境づくりを心がけた。 さらに、受講生の疑問や質問を随時把握し、その内容を講義に反映させた。

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク演習Ⅲ		15	グループワークに関する演習科目の担当者として授業運営に携わった。グループディスカッションやロールプレイに対して、適宜助言・指導を行った。
2	ソーシャルワーク演習Ⅳ	○	15	コミュニティアプローチに関する科目責任者として授業運営に携わった。学生のグループ活動が円滑に進むよう、適宜助言・指導を行った。
3	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		15	ソーシャルワーク実習に関する科目を担当し、授業運営に携わった。実習に必要な知識・技能の修得に資するよう、授業準備ならびに資料作成を行った。
4	社会福祉専門演習Ⅰ	○	15	社会問題をテーマとする専門的な論文の輪読を通じて、理解の深化を図った。
5	社会福祉専門演習Ⅱ	○	15	社会問題をテーマとする専門的な論文の輪読を通じて、理解の深化を図った。
6	社会福祉専門演習Ⅲ	○	15	卒業論文の準備状況に関する報告をもとに、意見交換やディスカッションを行った。
7	社会福祉専門演習Ⅳ	○	15	卒業論文の準備状況に関する報告をもとに、意見交換やディスカッションを行った。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ソーシャルワーク実習Ⅰ		学外実習：2026年2月～3月	対面実習に向けた準備・調整を行うとともに、実習が円滑に進むよう指導を行った。
2	IPW実習	○	学外実習：2025年8月～10月	地域担当教員として、それぞれのグループにおける実習が円滑に進むよう、環境整備や助言を行った。
3	共生社会実習Ⅰ	○	学外実習：2025年9月	対面実習に向けた準備・調整を行うとともに、実習が円滑に進むよう指導を行った。
4	共生社会実習Ⅱ	○	学外実習：2025年10月、2026年3月	対面実習に向けた準備・調整を行うとともに、実習が円滑に進むよう指導を行った。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025年4月～2026年1月	主指導	4名 副指導0名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	立教大学大学院 現代心理学研究科 兼任講師	2025年4月～2025年9月	「社会病理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」を担当した。	
2	上智大学 総合人間科学部社会福祉学科 非常勤講師	2025年4月～2025年9月	「社会福祉演習Ⅳ」を担当した。	
3	立教大学大学院 コミュニティ福祉学研究科 兼任講師	2025年9月～2026年3月	「コミュニティ政策特殊研究1（コミ学）」を担当した。	
4	九州大学 文学部・人文科学府 非常勤講師	2026年2月	「地域福祉社会学講義Ⅶ」を担当した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	高校出張講座	東京都立江北高等学校	講師「犯罪からの社会復帰の現状と課題」	2025年6月

2	社会福祉士実習指導者講習会	埼玉県立大学	講師「実習スーパービジョン論(2)」	2025年7月
3	社会福祉法人武蔵野会 世田谷区精神障害者ピアサポーター活躍支援事業	社会福祉法人武蔵野会・世田谷区	講師「自分の『回復』について考えてみる――『同じ経験』と『違う経験』を通して」	2025年10月
4	茨城薬物依存症回復支援協会プログラム	茨城薬物依存症回復支援協会	デイケアプログラムの講師	2026年1月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称		委員等の名称	任期
1	BLUECROSS MOVEMENT（非行少年の社会的自立支援のための運動）		実行委員	2017.4-現在
2	日本犯罪社会学会		本部事務局会計部常任理事	2023.10-現在
3	福祉社会学会		研究委員会委員	2023.7-現在
4	青少年問題学会		編集委員会理事	2024.3-2026.3
5	日本社会病理学会		研究委員会理事	2025.1-現在
6	福祉社会学会		第24回福祉社会学会大会実行委員会	2026.2-現在
7	『Punishment & Society』における査読			2026.1
8	『犯罪社会学研究』における査読			2026.2
9	『Journal of Criminal Justice』における査読			2026.2
10	『ソーシャルワーク研究』における査読			2026.3
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称			年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	高等教育開発センター所員		2022.4-現在
2	全学的委員会及びセンター業務等	教務委員会		2024.4-現在
3	全学的委員会及びセンター業務等	カリキュラム検討委員会		2024.4-現在
4	全学的委員会及びセンター業務等	IPW実習科目責任者会		2024.4-2026.3
5	全学的委員会及びセンター業務等	科目担当者会会長代理		2024.4-現在
6	学科等における委員会等	社会福祉専攻会議 担当		2014.4-現在
7	学科等における委員会等	カリキュラム検討委員会ワーキンググループ		2024.4-現在
8	学科等における委員会等	社会福祉子ども学科会議 担当		2014.4-現在
9	学生支援	サークル Re:SMILE 顧問		2026.3-現在
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名		主催	受賞年月
1	道学教師理事長賞		埼玉県立大学	2026.3
7. 特許の取得				
	特許名		特許番号	登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			